

病院説明書

資料 8 - 5

【医療法人社団哺育会 白岡中央総合病院】

【1.病院の基本情報】

① 医療機関名：医療法人社団哺育会 白岡中央総合病院

② 開設主体：医療法人

③ 所在地：埼玉県白岡市小久喜938-12

④ 許可病床数

(病床種別)

一般病床	療養病床	合計病床数
256 床	0 床	256 床

(病床機能別：2017年病床機能報告)

高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
0 床	157 床	41 床	58 床	256 床

⑤ 診療科目：内科、神経内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、美容外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科

⑥ 病床利用率（2017年度）： 91.8%

⑦ 平均在院日数（2017年度）：15.9日（一般病棟）

⑧ 政策医療（※該当するものに○を付けてください。）

がん	心筋梗塞	脳卒中	糖尿病	在宅医療
救急	小児	周産期	災害	精神

⑨ 特徴的な診療機能

- ・白岡市内唯一の総合病院として、急性期から回復期、慢性期の機能をもつ256床の病床を有している。入院患者内訳として、内科、整形外科の患者が比較的多い。内科では呼吸器系疾患、循環器系疾患の比率が高く、整形外科については外傷系疾患の比率が高い傾向がある。2017年度の入院患者の平均年齢は71.8歳。
- ・救急医療については、2017年4月より救急科を新設し、日中、夜間問わず、救急受入れ体制の整備と強化を図っている。また、同年同月より白岡市医師会、白岡市と協力し「白岡市休日診療事業」（初期救急医療）の業務委託を受け、休日の初期救急医療を担っている。
- ・在宅医療については、2017年4月より地域診療科（在宅医療部門）を新設、また同年12月には、在宅療養後方支援病院の施設基準を取得し、地域包括ケアシステムの構築を踏まえた体制を整備した。現在では、

訪問診療、訪問リハビリ、薬剤師訪問サービスを展開、また付帯事業として、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所を併設している。今後も地域における医療と介護の連携と協働に向けた支援体制を構築し診療機能の充実を図っていく。

⑩ 職員数（2018年7月1日時点）合計：471.3名 ※非常勤は常勤換算数

内訳・医師：常勤26名、非常勤8.0名

- ・看護職：常勤177名、非常勤31.0名
- ・専門職：常勤142名、非常勤2.2名
- ・事務職：78名、非常勤7.1名

【2. 現状と課題】

①病院の現状

●病院理念

『安全で確実なわかりやすい医療』

●2018年度 基本方針

《 百折不撓 GRIT 》

～誇りと活力ある最高の病院を目指して地域オンリーワン（only one）の病院を創ろう～

- 1.患者中心の医療の推進（白岡市唯一の総合病院【急性期】としての機能強化）
- 2.地域と密着した医療の実践（白岡市唯一の総合病院として地域包括ケアシステム【白岡モデル】の構築）
- 3.健全経営の継続（地域に密着したケアミックス型病院の構築）
- 4.人財の育成（次世代を担う人財育成と働く支援の充実）
- 5.継続的質改善の取り組み（誇りを活力のある最高の病院を目指すために）

●届出入院基本料

一般病棟入院基本料（急性期一般入院基本料1）

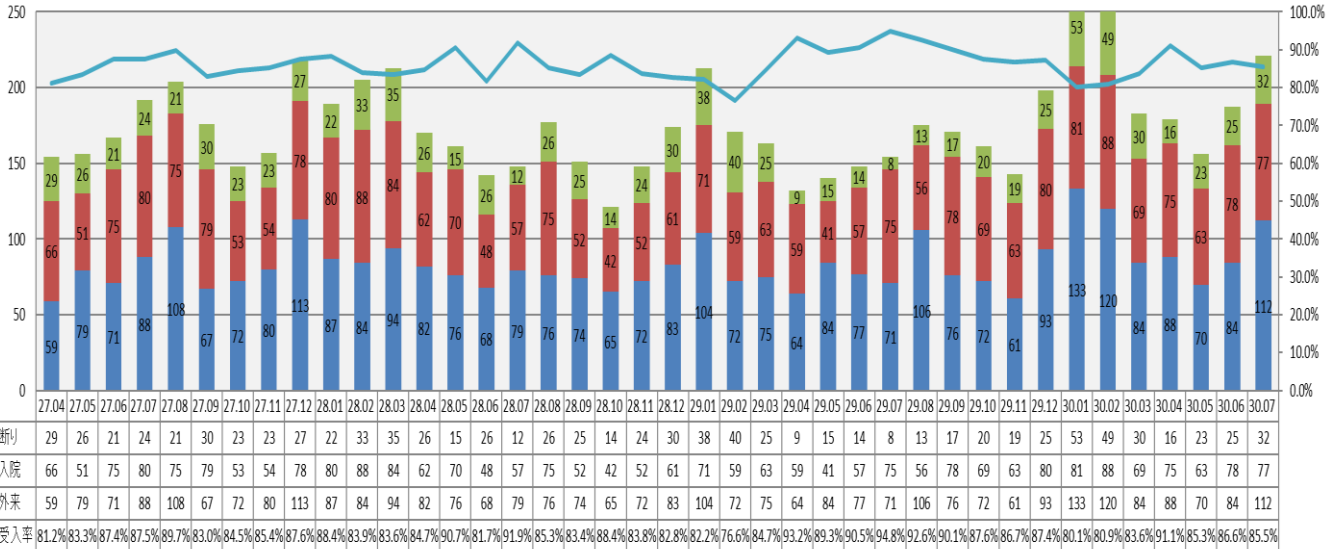
回復期リハビリテーション病棟入院料1

障害者施設等入院基本料（10：1）入院基本料

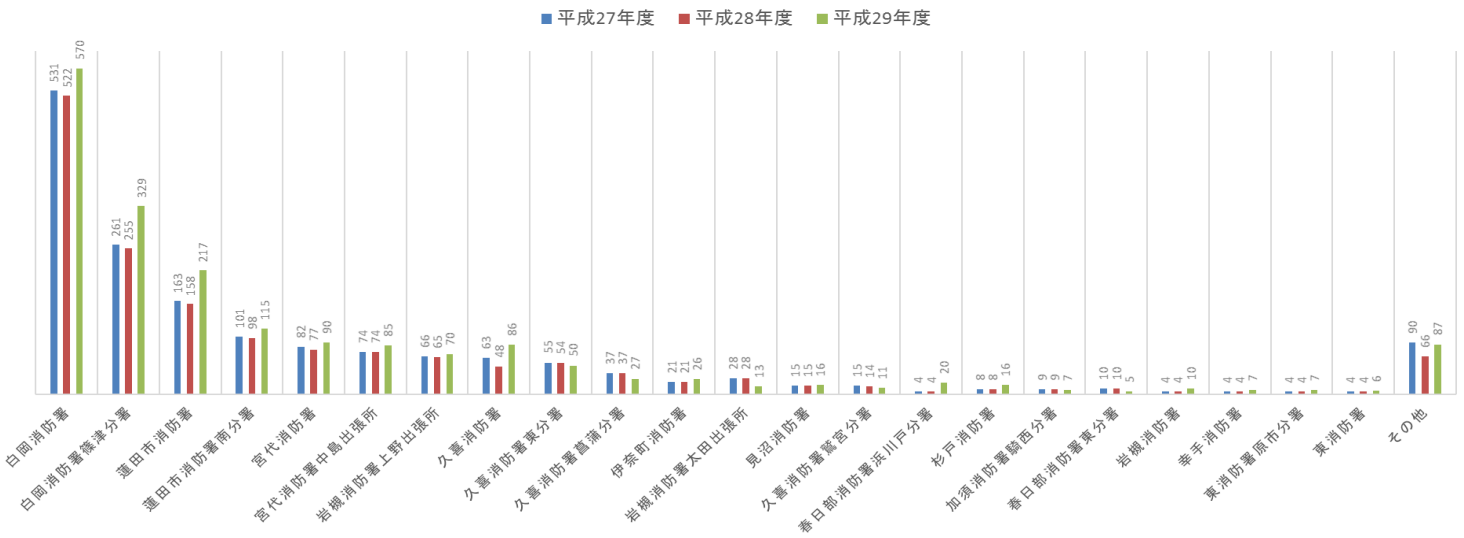
●各種指標

白岡中央総合病院 診療実績				
項目 / 年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (7月まで)
病床稼働率 【一般病棟】	83.1%	84.9%	87.6%	86.8%
【回復期病棟】	94.3%	94.4%	95.3%	97.9%
【障害者病棟】	100.1%	100.7%	101.1%	100.9%
病床稼働率合計	88.7%	90.0%	91.8%	91.8%
平均在院日数(直近3ヶ月)	15.5	16.6	15.9	16.2
重症度、医療・看護必要度割合	16.4%	27.4%	26.6%	32.2%
外来患者数	122,348	117,370	120,292	39,785
1日平均外来患者数	417.4	398.4	408.1	402.4
救急受け入れ件数	1,839	1,638	1,857	647
救急受け入れ率	85.4%	84.7%	88.1%	87.1%
新入院患者数	3,095	2,964	3,054	1,063
紹介患者数	2,765	2,930	3,286	1,145

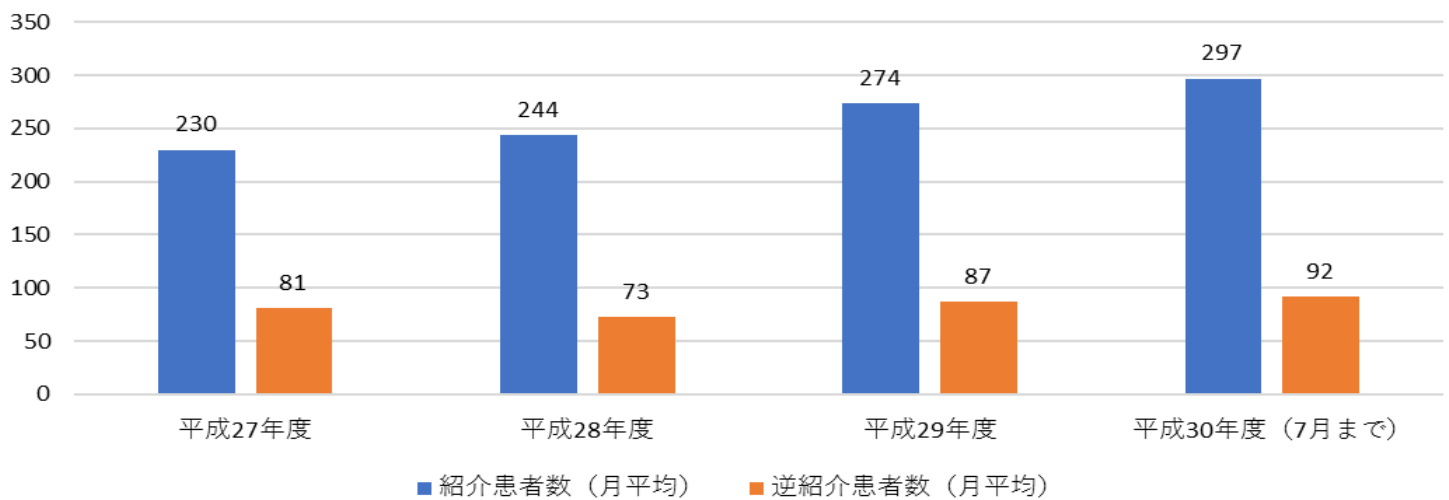
年間救急搬送件数動向



白岡中央総合病院 消防署別受入数



紹介患者・逆紹介患者数年度比較



②病院の課題

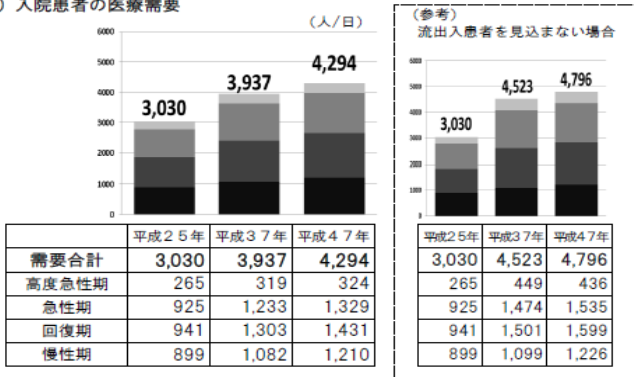
- ・自院の属する利根医療圏では、今後、2035年まで回復期の病床の不足が見込まれている。白岡市においては高齢者人口（65歳以上）は2045年まで増加する傾向と推計されている、また、近年では都内からの介護需要ニーズが高く、入所介護施設も増加している傾向にある。今年度中には急性期病棟の一部を地域包括ケア病棟へ転換し、地域の急性期を経過した患者や、在宅・介護施設などから長期療養中に急性増悪した患者の受け皿となるべく、医療提供体制の整備を図っていく。

○利根医療圏 医療応需推計

3 医療需要推計

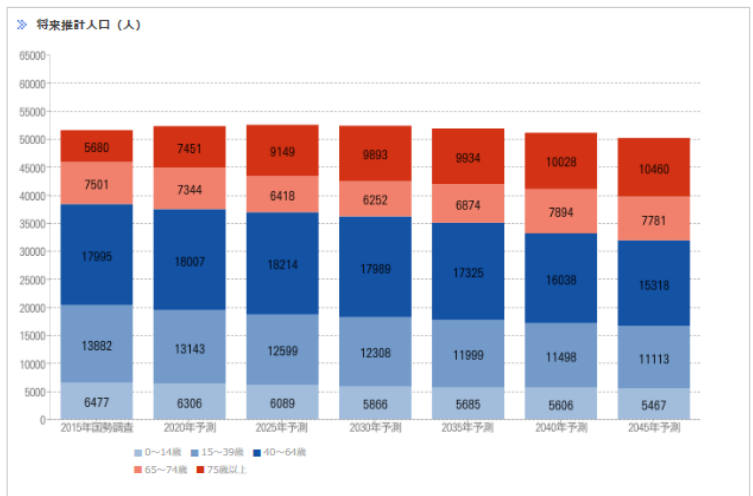
平成37年（2025年）及び平成47年（2035年）の医療需要を、現在と同程度の割合で患者の流出があることを前提にして推計を行いました。
 ・厚生労働省「地域医療構想策定支援ツール」により作成
 ・平成25年（2013年）医療需要データは、ガイドラインによる方法で機能区分別に推計

(1) 入院患者の医療需要



埼玉県地域医療構想より

○白岡市の将来推計人口



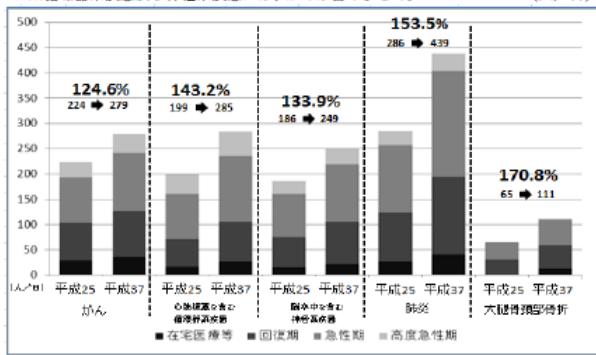
日本医師会「地域医療情報システムより」

- ・利根医療圏では、2025年までに、循環器系疾患においては143.2%、肺炎においては153.5%、また大腿骨頸部骨折においては170.8%の増加が見込まれている。自院においても左記の入院患者の割合が多く、地域医療のニーズが増加する推計もあることから、医師や看護師などの医療専門職の確保が急務と考えられる。

○主な疾患の医療需要推計（医療機関所在地）

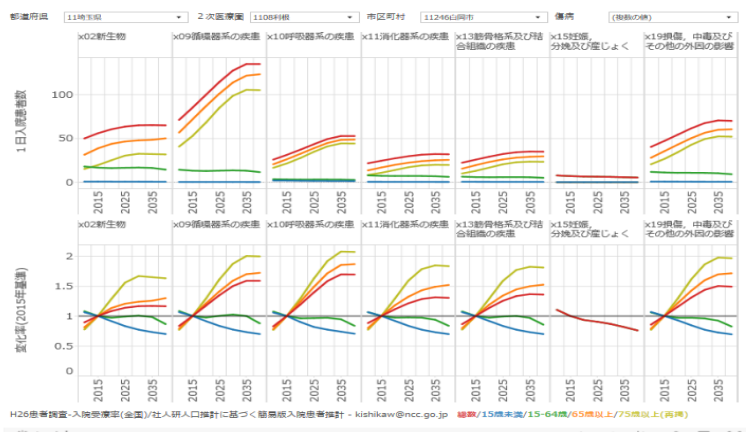
【参考資料2】主な疾患の医療需要推計（医療機関所在地）

※療養病床については、診療報酬が包括算定されており推計ができないため、慢性期の需要は推計していません。
 ※循環器系疾患及び神経系疾患には、がんは含まれません。



埼玉県地域医療構想より

○白岡市の人口・患者数推計（ICD10・7領域）



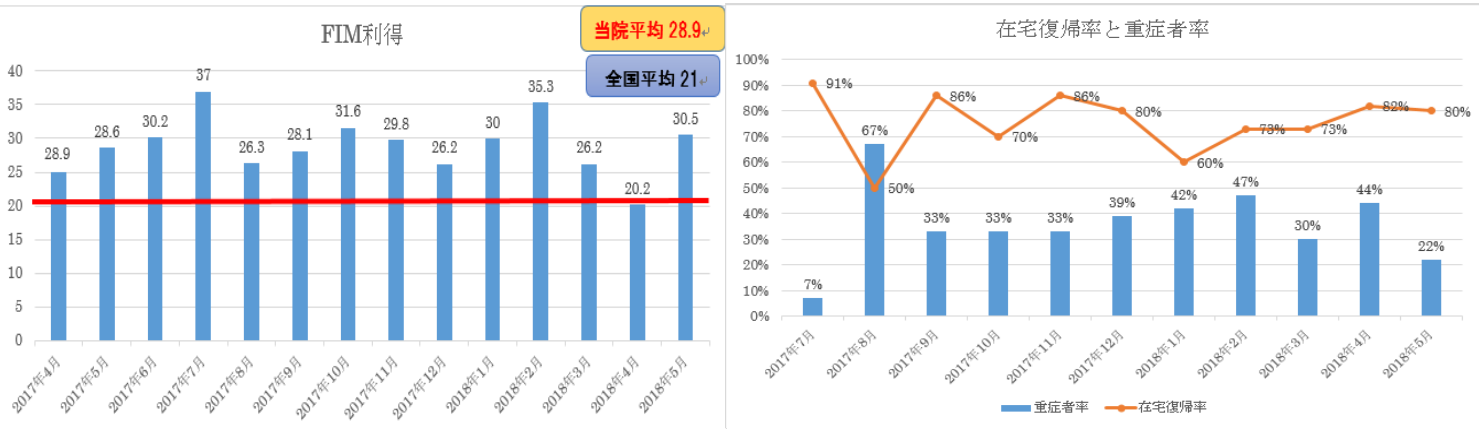
石川ベンジャミン光一氏「tableau public」より

<https://public.tableau.com/profile/kbishikawa#!/vizhome/EstPat2014/sheet2>

- ・救急医療については、前述したように救急科の新設し、救急医療体制の強化を図ってきた。自院は白岡消防署からの救急搬送が多い傾向があるが、近隣からの要請も増加傾向となっている。しかし、救急受入率としては、90%を下回っていることから、24時間365日の救急要請のニーズに対応すべく

各診療科の充実を図り、一次・二次の救急医療を担う救急告示病院として、近隣の医療機関や消防機関とも情報共有や連携を深め、救急受け入れ体制の強化を図っていきたい。

- 回復期リハビリテーション病棟は開設より5年が経過し、脳血管疾患、運動器疾患を中心に患者の受け入れ体制を整備してきた。診療の質を図るアウトカム指標として、ADLの改善度であるFIM利得は全国平均を大きく上回っている。しかし、より重症度の高い患者をいかに在宅復帰に向けて支援をしていくか、一層の努力が必要と考えている。重症度の高い患者を受け入れつつも、退院支援や在宅復帰支援に向けて、医療・介護の連携の架け橋となり、在宅復帰に向けたサポ-支援体制を充実させることが課題である。



- 病院の老朽化に伴い、アメニティの整備が課題である。

③今後の方針

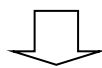
【現在】

(病床種別)

一般病床	療養病床	合計病床数
256 床	0 床	256 床

(病床機能別：2017年病床機能報告)

高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
0 床	157 床	41 床	58 床	256 床



【2025年】構想案

(病床種別)

一般病床	療養病床	合計病床数
256 床	0 床	256 床

(病床機能別)

高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
0 床	143 床	55 床	58 床	256 床

※今後変更の予定がある場合のみ記載してください。